
赤 潮 情 報（定期赤潮調査結果）

鹿児島県水産技術開発センター
平成18年7月20日

八 代 海 No.1

[1] 7月19日の調査結果

(1) 赤潮生物の出現状況

全調査点で赤潮による着色域は確認されませんでした。

前回調査(7/13)と同様にキートセロス属がやや多いものの、その他のプランクトンについては、あまり多くない状況でした。

有害種については、シャトネラ属およびコックロディニウム ポリクリコイデス共に全調査点で確認されませんでした。

(2) 海 況

表層水温は八代海全域で23.1～25.8℃で同年同時期より低め、塩分は31.0～32.3で同年同時期よりやや高め、透明度は同年同時期並となっています。

水 温：平均 24.2℃ (26.1℃)

塩 分：平均 31.7 (30.9)

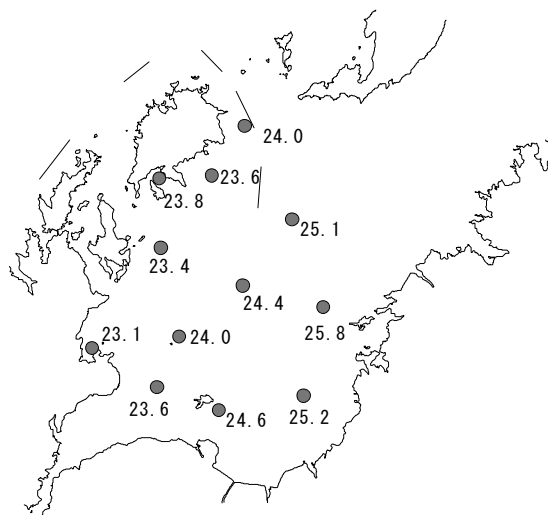
透明度：平均 8.6m (8.2m)

()はH元～H17年7月の平均値（同平年値）

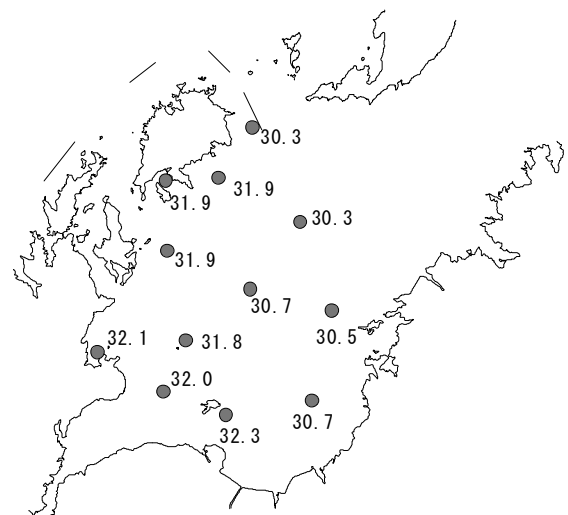
[2] 今後の赤潮発生の予想

全調査点で有害種は確認されておらず、また、珪藻類(優占種はキートセロス属)がやや多い状況でしたので、今後しばらくの間は、有害種による赤潮形成の可能性は低いと考えられます。

ただし、今後の梅雨明け以降、水温・塩分が上昇してくると、例年夏季に赤潮を形成しているコックロディニウム ポリクリコイデスが好むとされている高水温(27～28℃)・高塩分(32～33)の環境下になってきますので、定期的に検鏡等によるプランクトンの監視が必要と思われます。



表層水温 (°C)



表層塩分

赤潮情報(携帯用) : <http://kagoshima.suigi.jp/akashio/i/index.shtml>

赤潮図鑑(パソコン用) : <http://kagoshima.suigi.jp/akashio/HTML/index.shtml>